

## 令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

|               |                                |
|---------------|--------------------------------|
| 事業名           | 若者と協働してつくる安全安心な超特別栽培米プロジェクト    |
| 事業主体<br>(連絡先) | 青倉受託作業班<br>下水内郡栄村大字北信2115-1    |
| 事業区分          | (6)産業振興、雇用拡大 (イ 農業の振興と農山村づくり)  |
| 事業タイプ         | ソフト・ハード                        |
| 総事業費          | 3,285,920円 (うち支援金: 2,435,000円) |

### 事業内容

青倉受託作業班は、山間地で高齢者等が作れない田んぼを守る担い手として結成した任意組合です。これまでは農地を守ることに主眼に置いていましたが、これからは生産物の付加価値を高め独自のマーケティングによって持続可能な農業経営の確立をめざすことにした。

- ・作業班メンバーと移住者等若者で「みらい協働会議」を開催し、減農薬栽培のお米について研究、懇談。
- ・デザインされた米袋の製作
- ・SNS活用したブランディング
- ・虫食いなど被害米を選別する色彩選別機等の導入
- ・減農薬米「SNOW RICE」の生産と商品化

### 事業効果

- ① 減農薬にこだわった栽培と当地の自然環境をアピールしブランディングができたことで「ふるさと納税返礼品」に従来のお米よりも高価格の掲載品として採用されるなど、有利販売や独自販売へのルートが開けてきた。
- ② 移住者等の若者と共通するテーマでお米を生産することによって、互いの信頼関係が生まれ、繋がりが深くなったことで、今後地域の中での活躍の場や担い手として期待ができる。また、新たな移住希望者への手助けや体験ツアー等の受け入れが可能となった。

### 今後の取り組み

農薬を減らしたお米「SNOW RICE」の商品化は、長野県や栄村のイメージアップにつながれるものと思うので、次年度は生産量を増やし独自販売の更なる拡大をめざしていきたい。また地域を担う団体として、これからも「米づくりと自然を活かした暮らしの創造」に取り組んでいきたい。

そのためには次代を担う若者が活躍できる場づくりが必要で、新たな取り組みとして地域おこし協力隊の受け入れなどを進めて、積極的な人材育成に取り組んでいきたい。



【減農薬栽培の田んぼを観察】

### 【目標・ねらい】

- ① お米のブランド化による有利販売
- ② 若者が定着し活躍できる地域づくり

### ※自己評価【B】

#### 【理由】

- ・白米より玄米が出ていることから減農薬に関心のある方の購入が推察され、意図したことが一定部分で理解されたこと。
- ・生産者としてのこだわりと商品に対する自信度が上がった。